

# 新型コロナウイルス感染症の 罹患後症状（いわゆる後遺症） に関する実態調査結果について

令和5年1月26日

群馬県健康福祉部感染症・がん疾病対策課

# 調査の概要（1）

- 目的：新型コロナウイルス感染症の療養期間終了後の諸症状（罹患後症状）について、県内の状況を把握することで、相談・診療体制の整備や県民への情報発信の強化等につなげる。
- 対象者：令和4年1月1日から8月31日までに新型コロナウイルス感染症と診断された者のうち、HER-SYS上で携帯電話番号の登録がある者から、年代・性別・入院の有無に偏りなく抽出した約5,000人。
- 方法：ぐんま電子申請受付システム上のアンケートフォームURLをSMSにより送信
- 時期：令和4年11月7日から11月21日
- 回答者：447人（回答率：約9%）

# 調査の概要（2）

## ■留意事項：

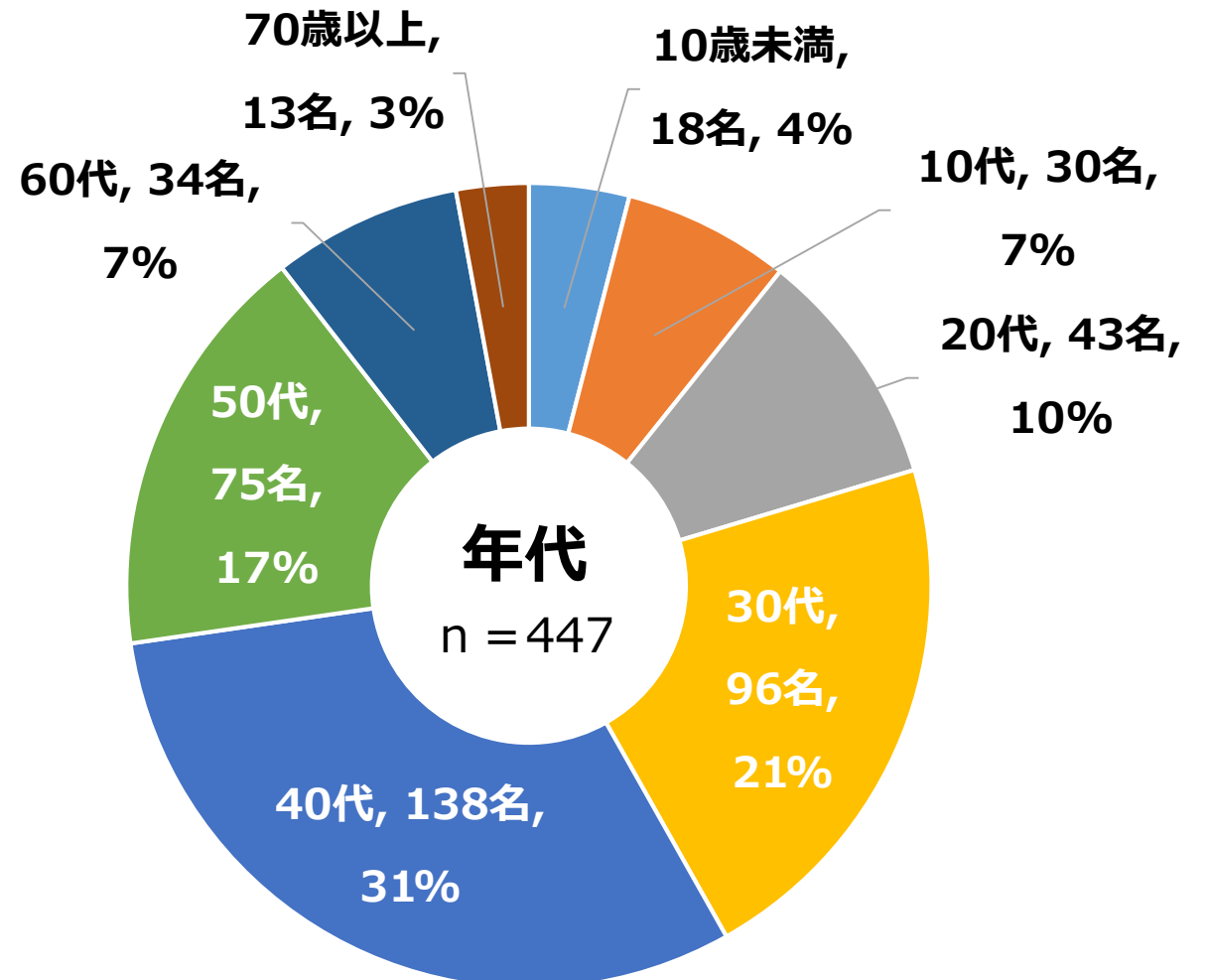
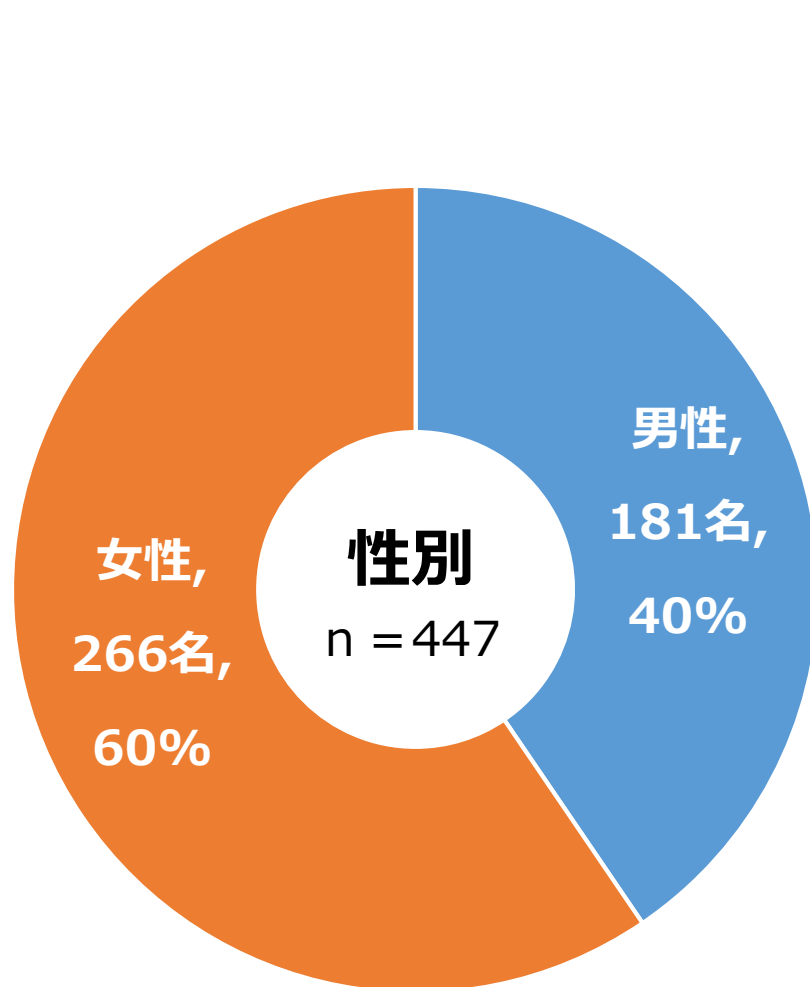
- 対象者のうち回答があった者について集計したものであり、罹患後症状を有する人が積極的に回答するなど、結果に偏りが生じている可能性がある。
- 後遺症と思われる症状の有無は、回答者ご本人の判断に基づくものであり、医師の診断結果に基づくものではない。
- 端数処理の関係で、総数と内訳の計とが一致しない場合がある。

## 【参考】新型コロナウイルス感染症の罹患後症状（いわゆる後遺症）について

- 新型コロナウイルスに罹患した人にみられ、少なくとも2か月以上持続し、他の疾患による症状として説明がつかないものとされています。通常は発症から3か月経った時点にもみられます。
- 症状には、疲労感・倦怠感、息切れ、思考力や記憶への影響など、様々なものがあり、日常生活に影響することもあるとされています。
- 新型コロナウイルスに罹患してすぐの時期から持続する症状、回復した後に新たに出現する症状、症状が消失した後に再び生じる症状の全般をさしています。

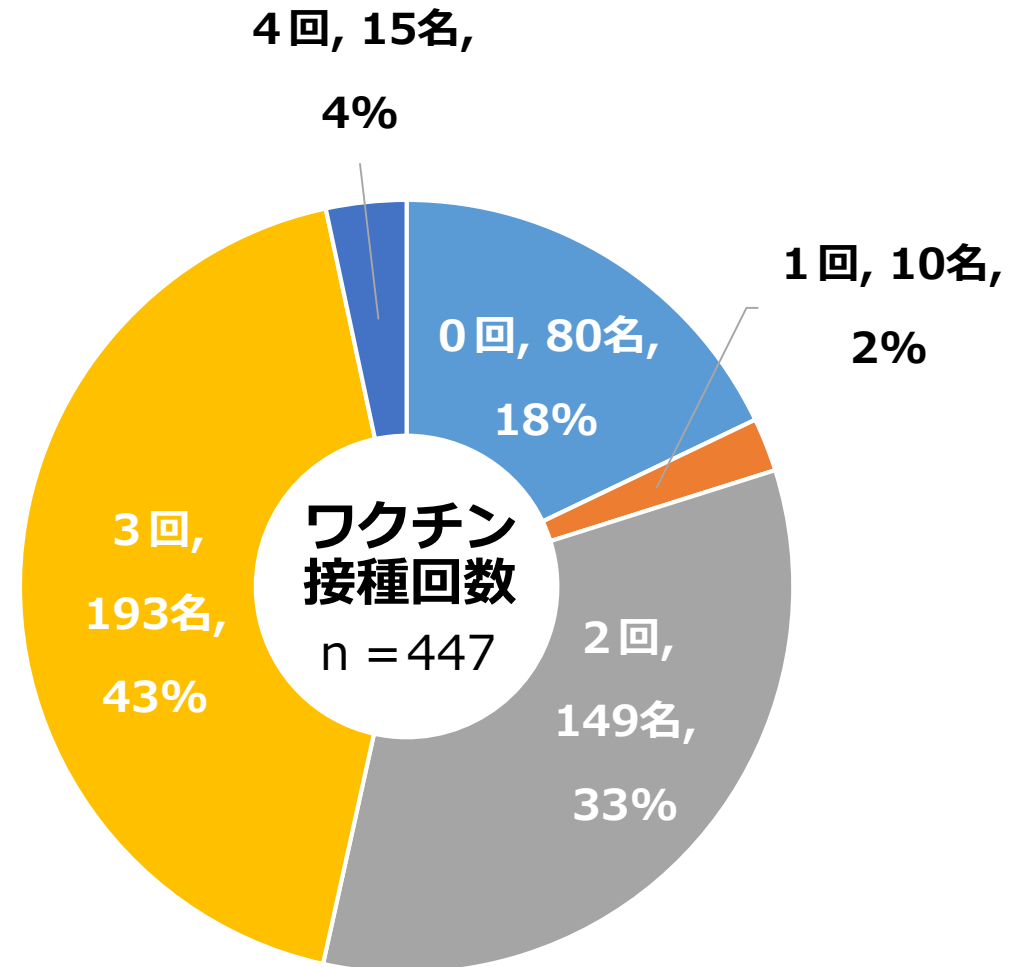
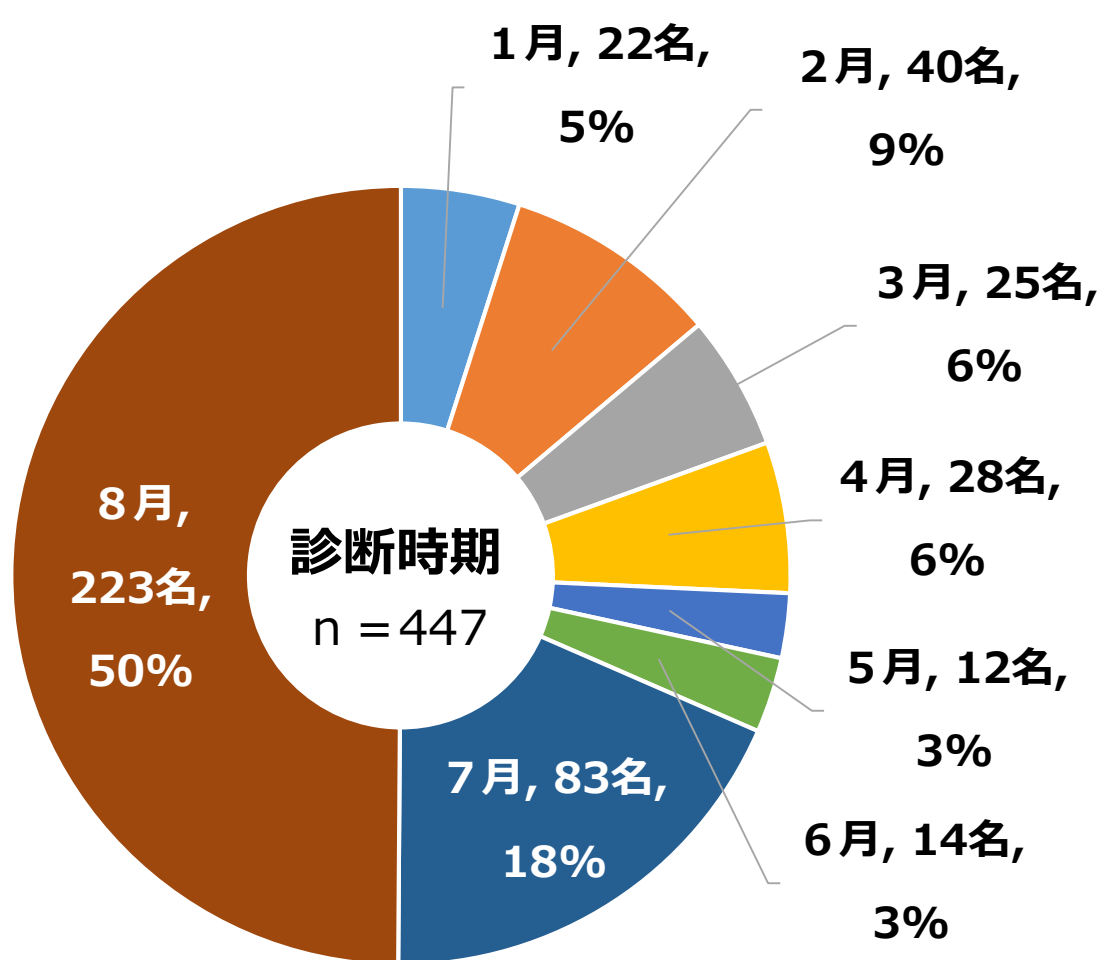
# 回答者の属性 (1)

- 回答者447名のうち、男性は181名 (40%)、女性は266名 (60%)。
- 年代別では、40代が最も多く138名 (31%)、次いで30代が96名 (21%)。



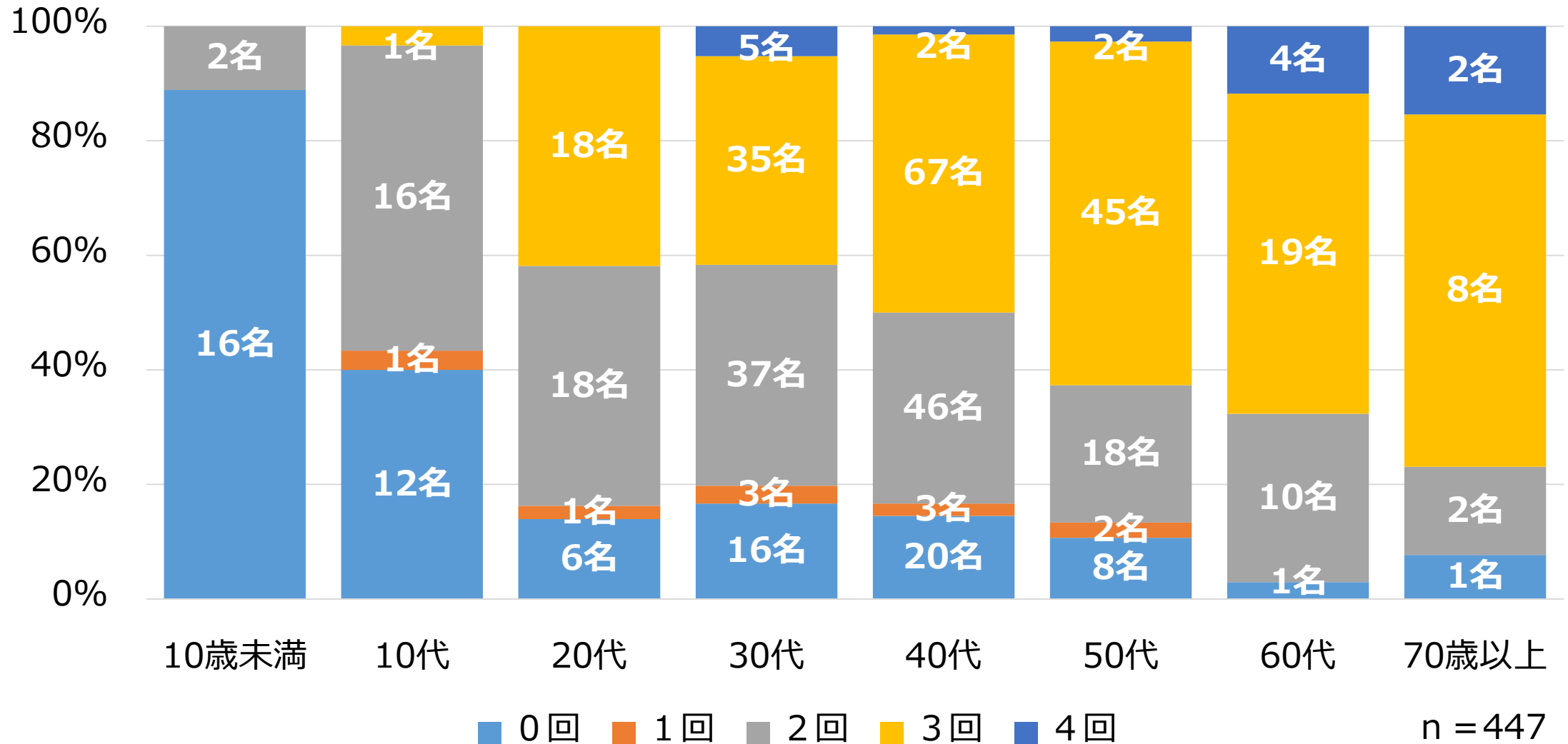
# 回答者の属性 (2)

- 診断時期は、8月が最も多く223名(50%)、次いで7月が83名(18%)。
- ワクチン接種回数は、2回以下が239名(53%)、3回以上が208名(47%)。



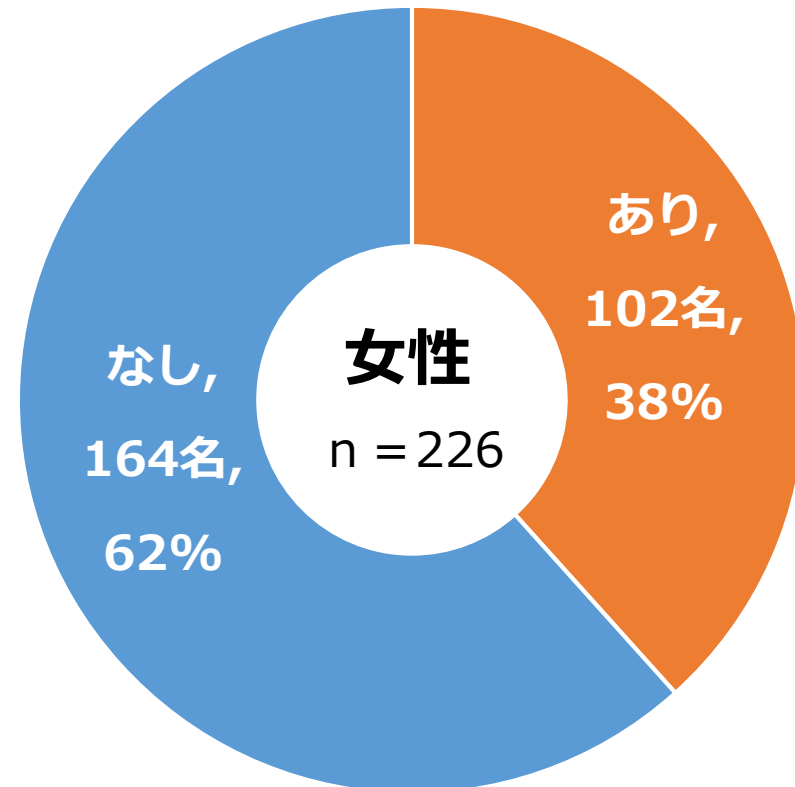
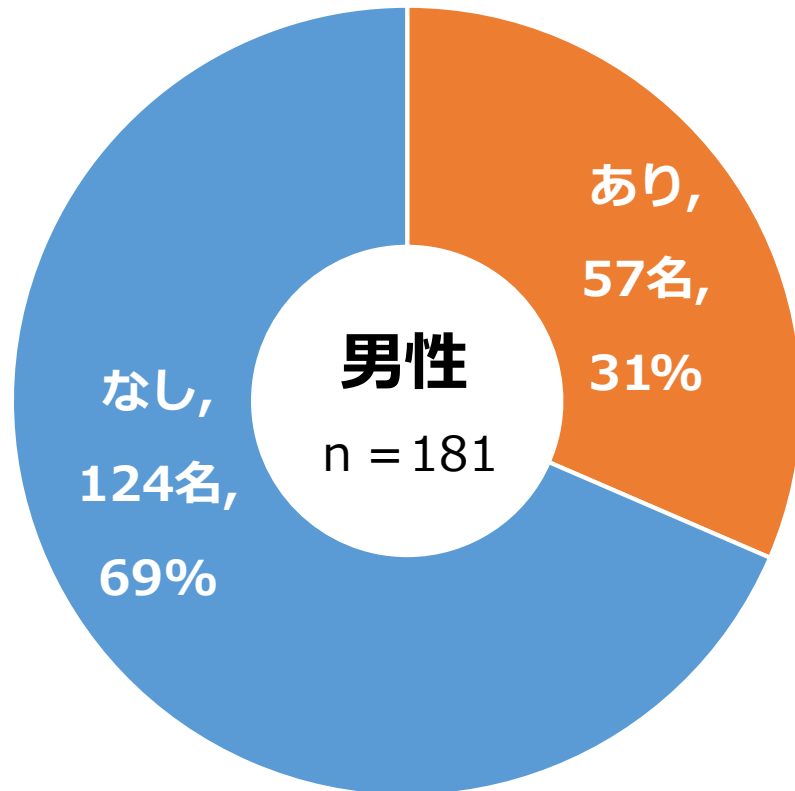
# 回答者の属性（3）

■年代別のワクチン接種回数は、20代以降で3回以上の割合が増加する。



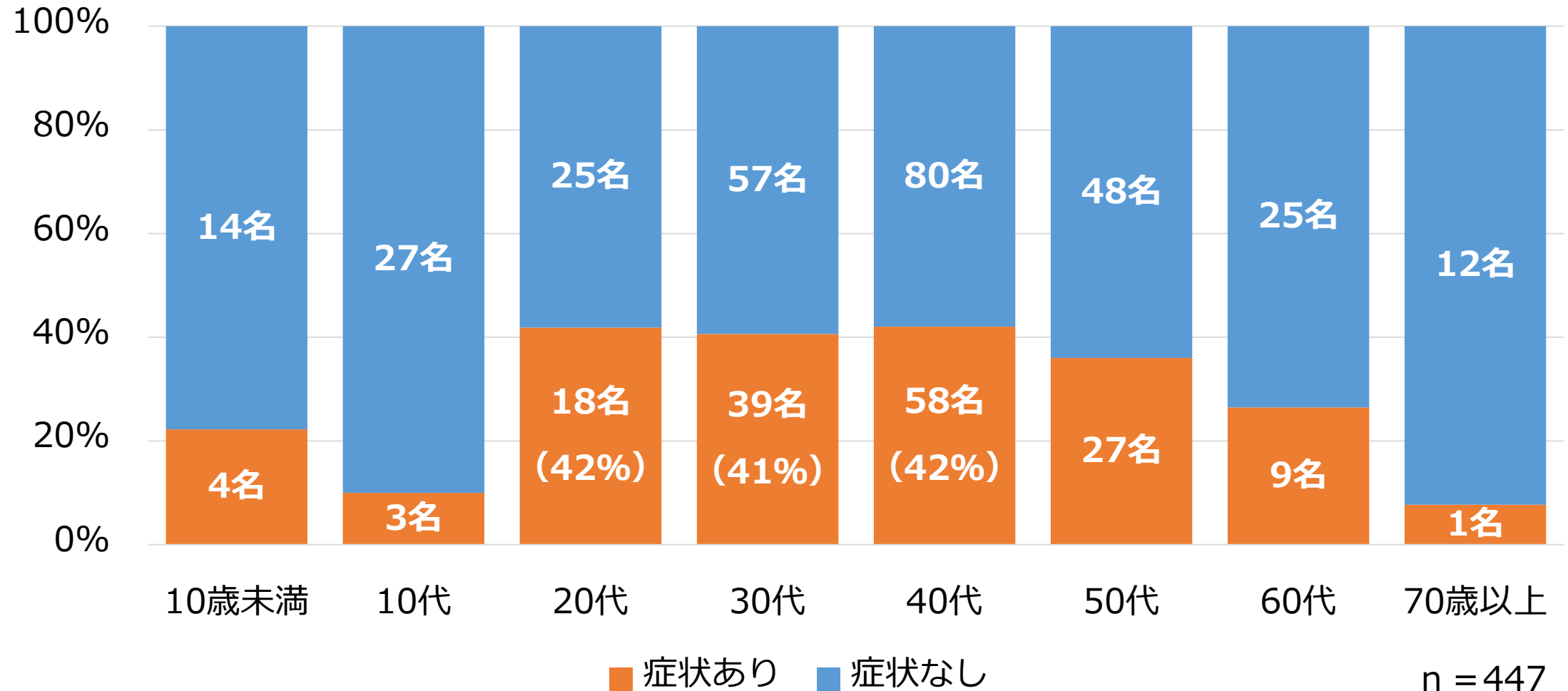
# 症状の有無（性別）

- 回答者447名のうち、後遺症と思われる症状があったのは159名（36%）。
- 性別では、男性が57名（31%）、女性が102名（38%）。



# 症状の有無（年代別）

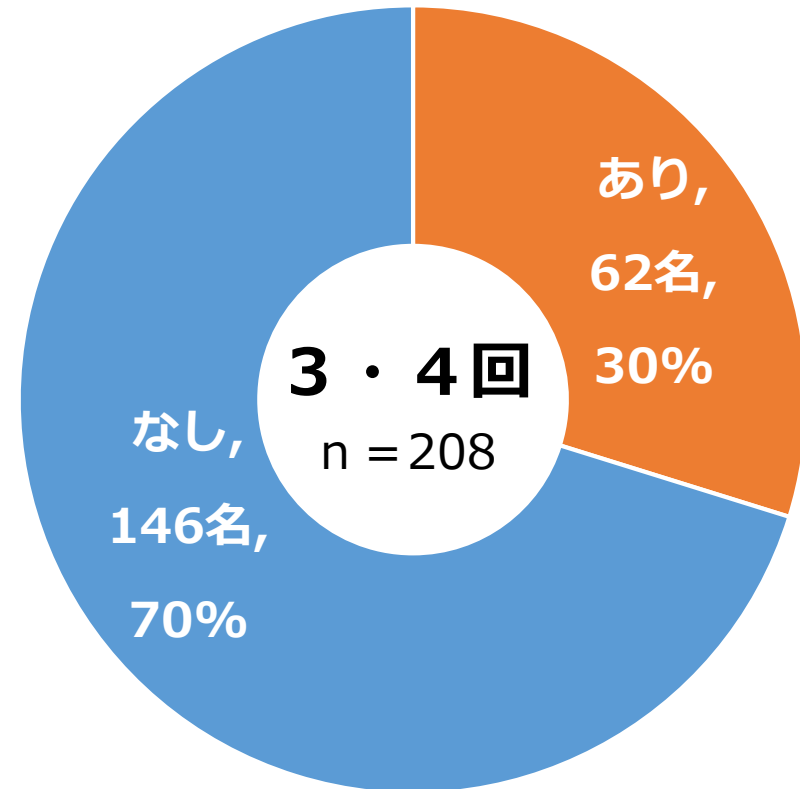
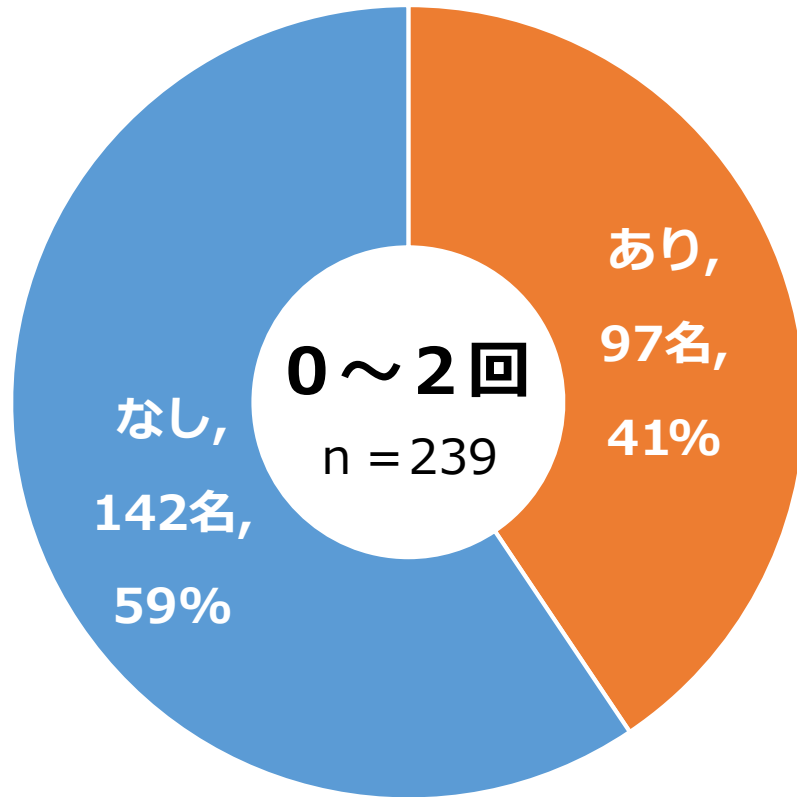
■年代別では、20代から40代が、後遺症と思われる症状があったという割合が多かった。





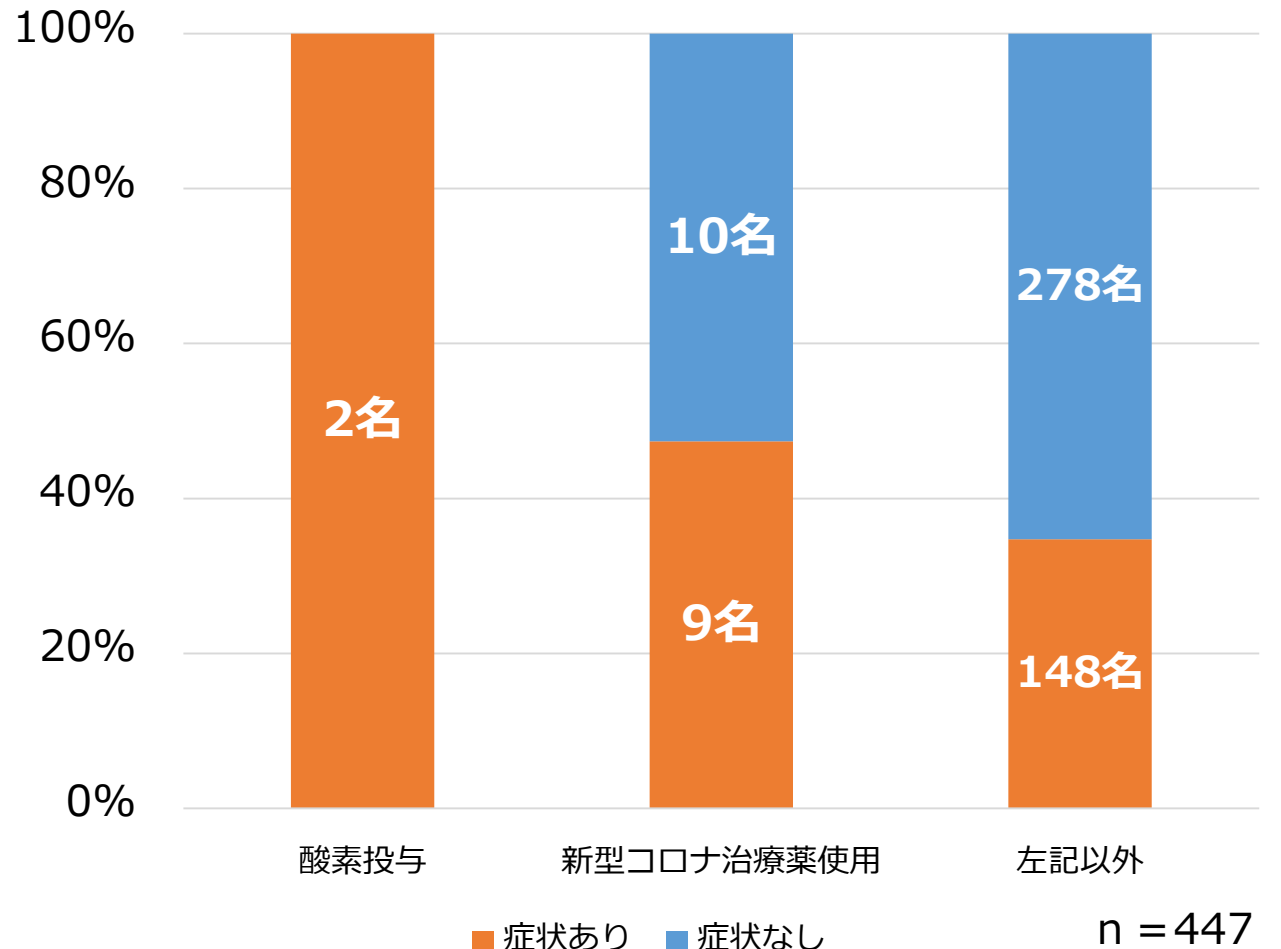
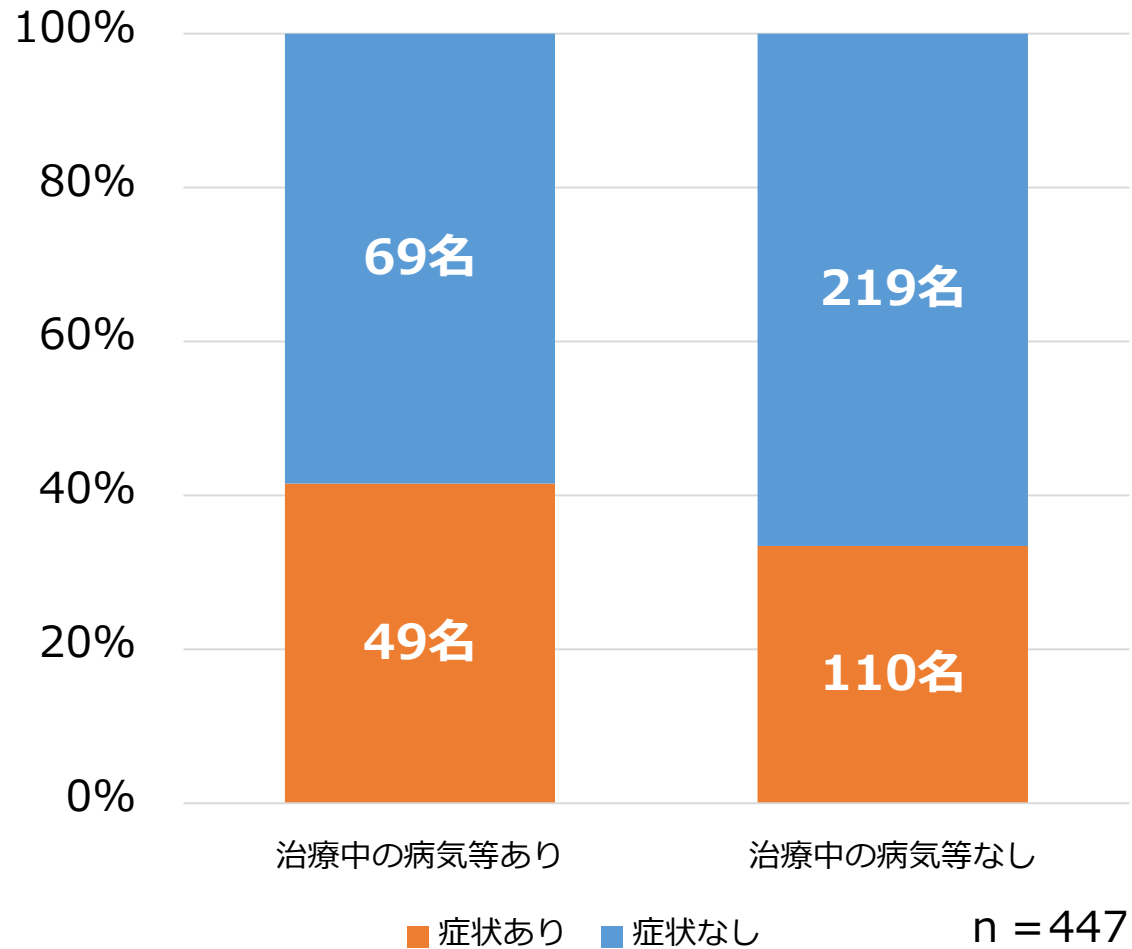
# 症状の有無（ワクチン接種歴別）

- ワクチン接種歴別では、後遺症と思われる症状があった方は、接種歴2回以下が97名（41%）、3回以上が62名（30%）。



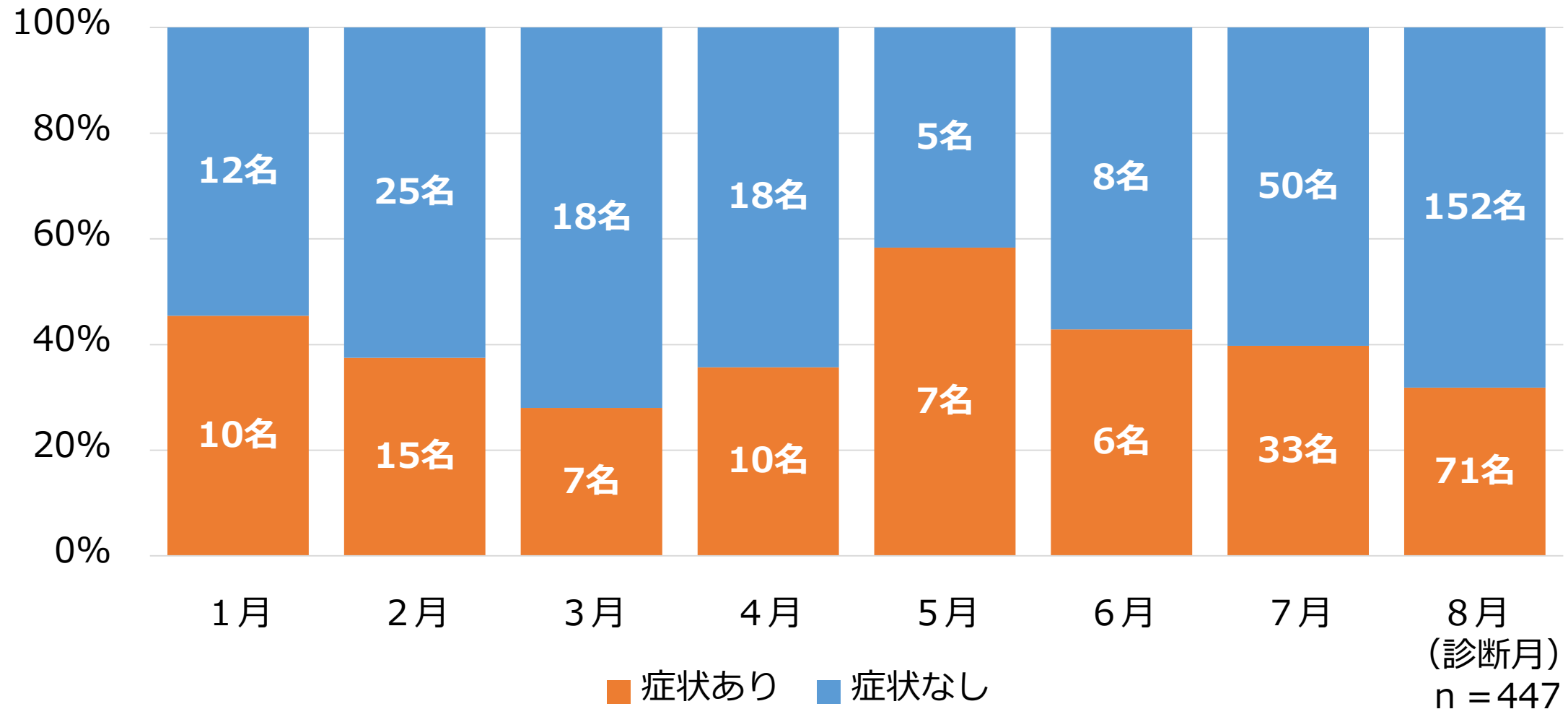
# 症状の有無（既往歴・治療別）

- 既往歴別では、治療中の病気等ありが49名（42%）、なしが110名（33%）。
- 治療別では、酸素投与が2名（100%）、新型コロナ治療薬使用が9名（47%）。



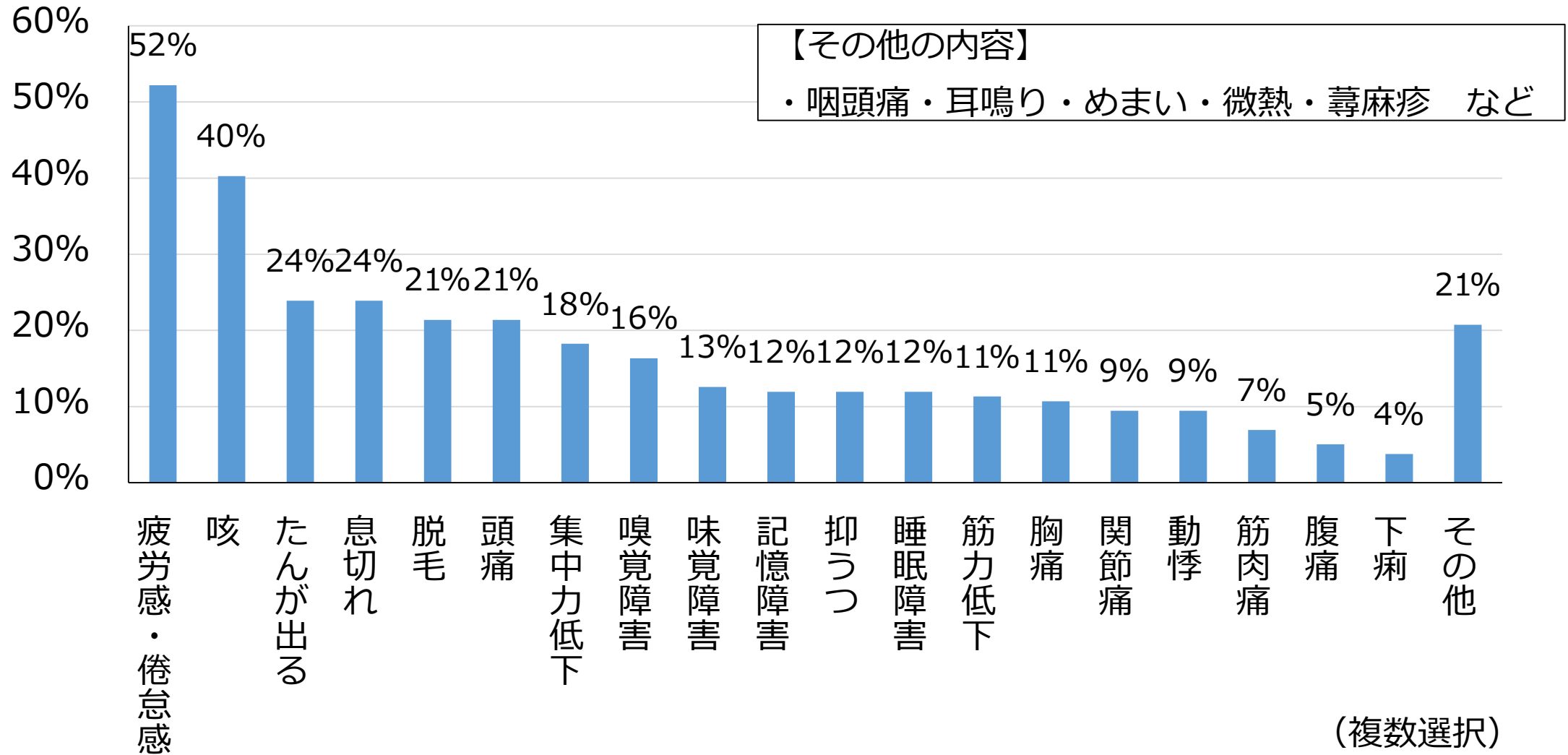
# 症状の有無（診断時期別）

■新型コロナの診断時期別では、5月が後遺症と思われる症状があったという割合が最も多く（7名・58%）、次いで1月（10名・45%）の順であった。



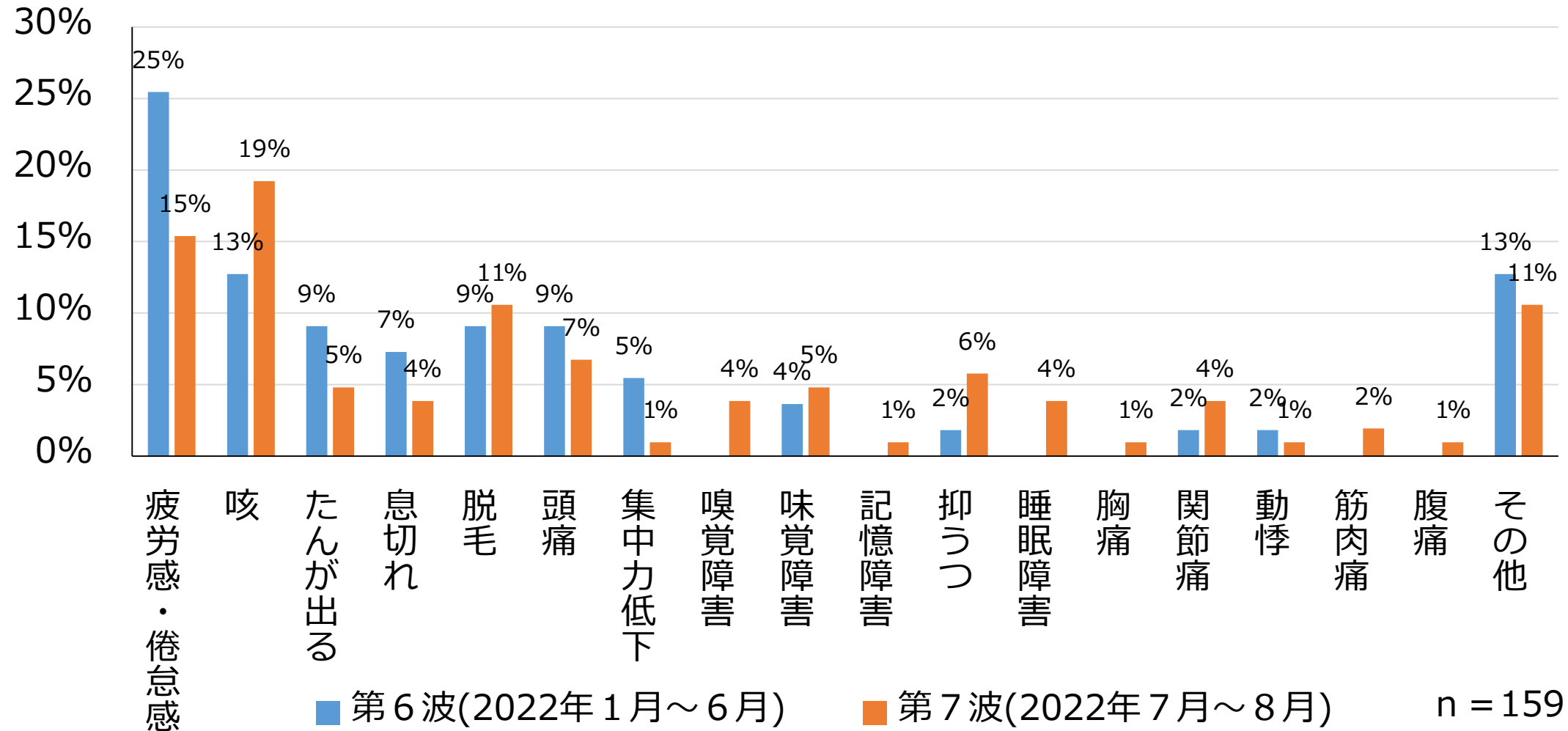
# 後遺症と思われる症状

■回答者159名のうち、40%以上に「疲労感・倦怠感」・「咳」の症状。



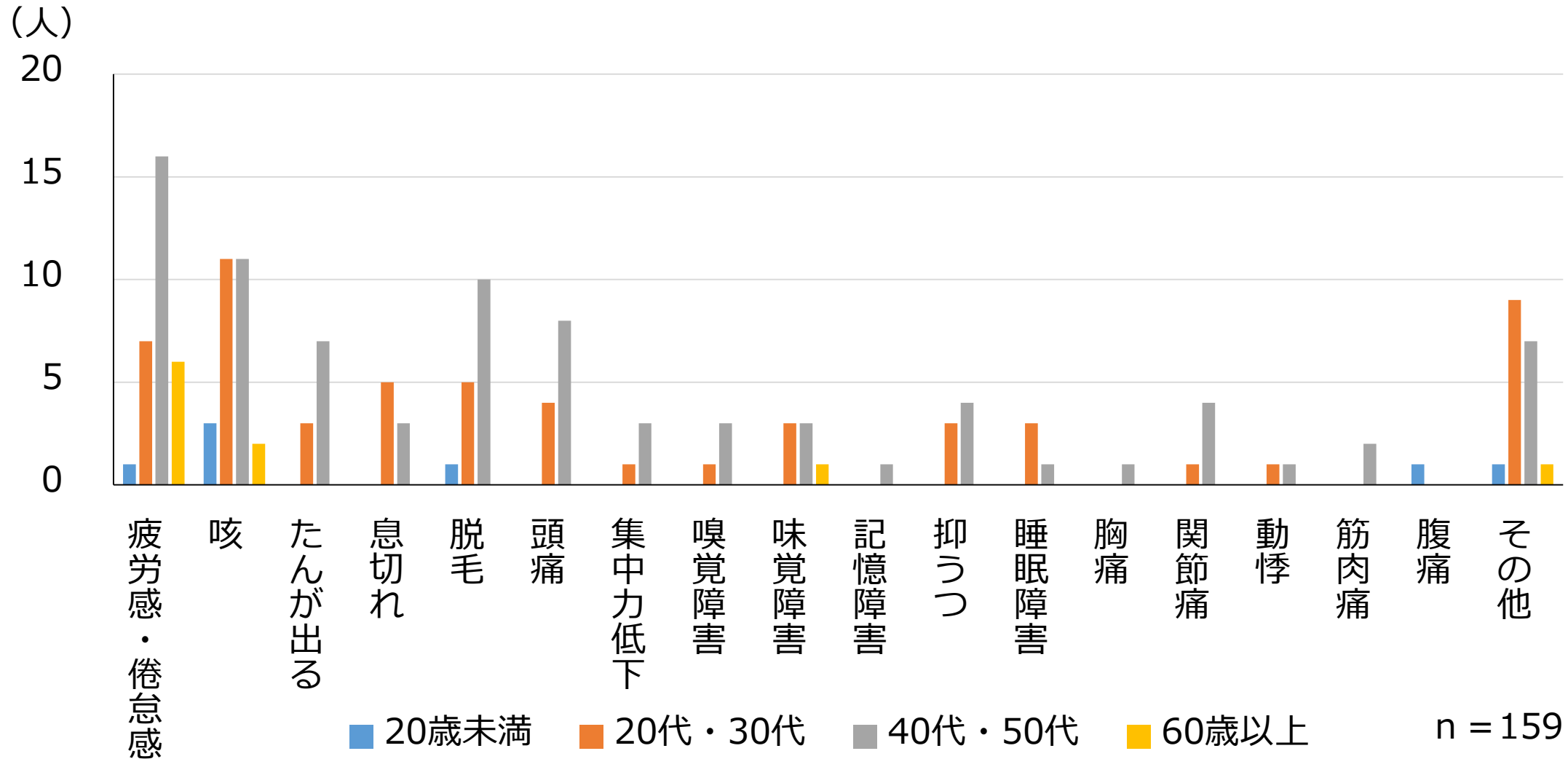
# 後遺症と思われる症状（診断時期別/一番つらい症状）

■第6波では、「疲労感・倦怠感」が最も多く25%。第7波では、「咳」が最も多く19%。



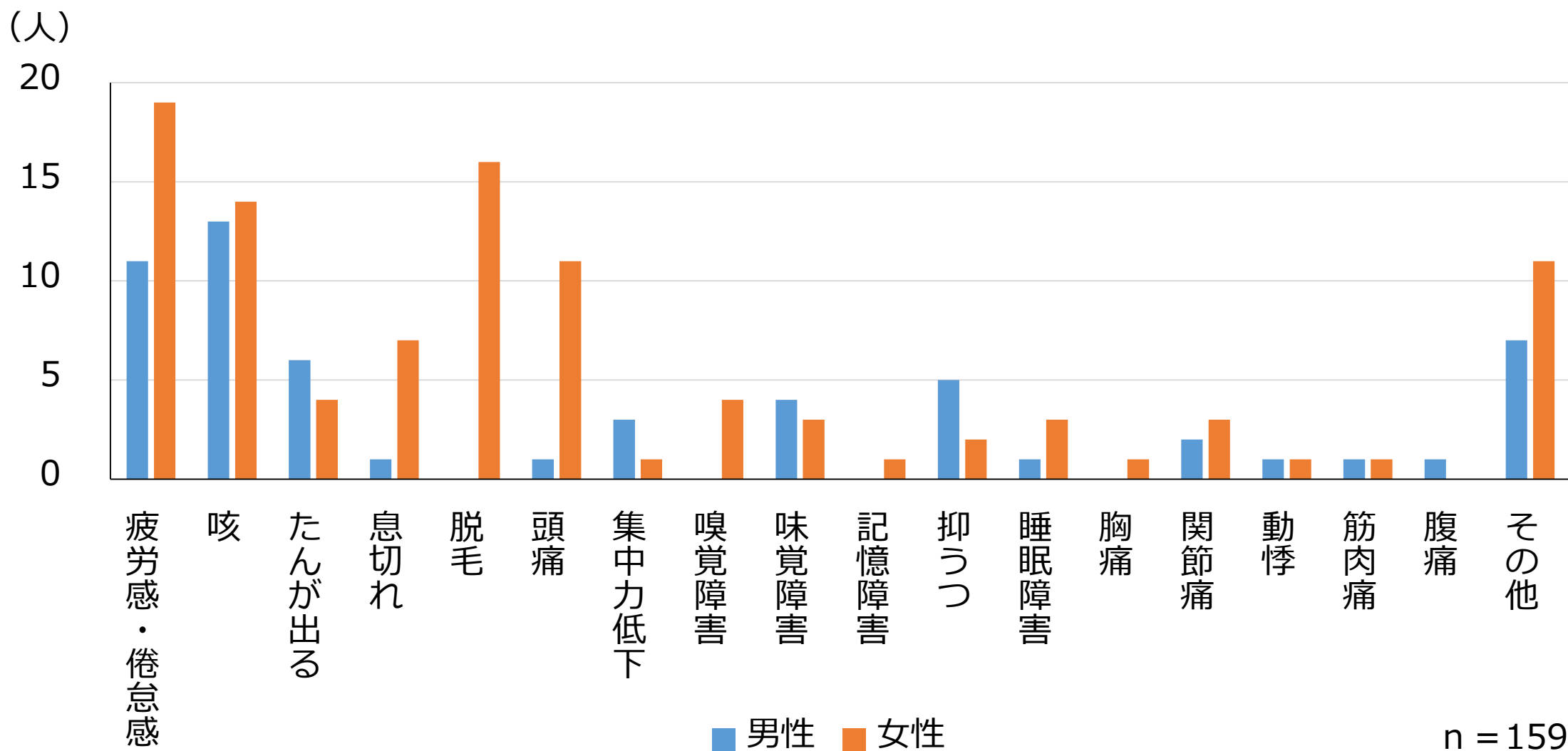
# 後遺症と思われる症状（年代別/一番つらい症状）

- 20歳未満・20代・30代では、「咳」が最も多く、40代・50代・60歳以上では、「疲労感・倦怠感」が最も多い。



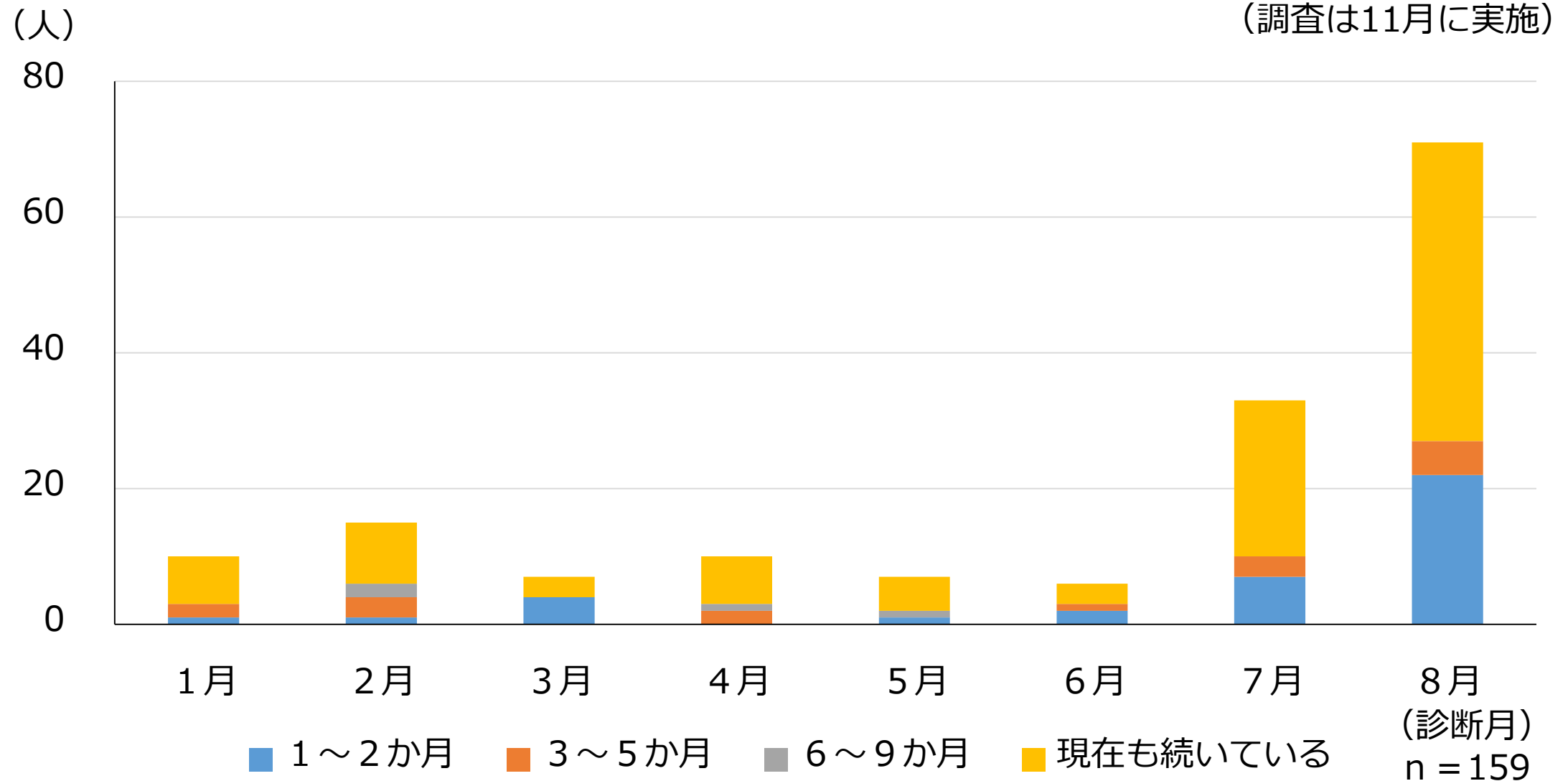
# 後遺症と思われる症状（性別/一番つらい症状）

■男性では、「咳」が最も多く、女性では、「疲労感・倦怠感」が最も多い。



# 後遺症と思われる症状（診断時期別/継続期間）

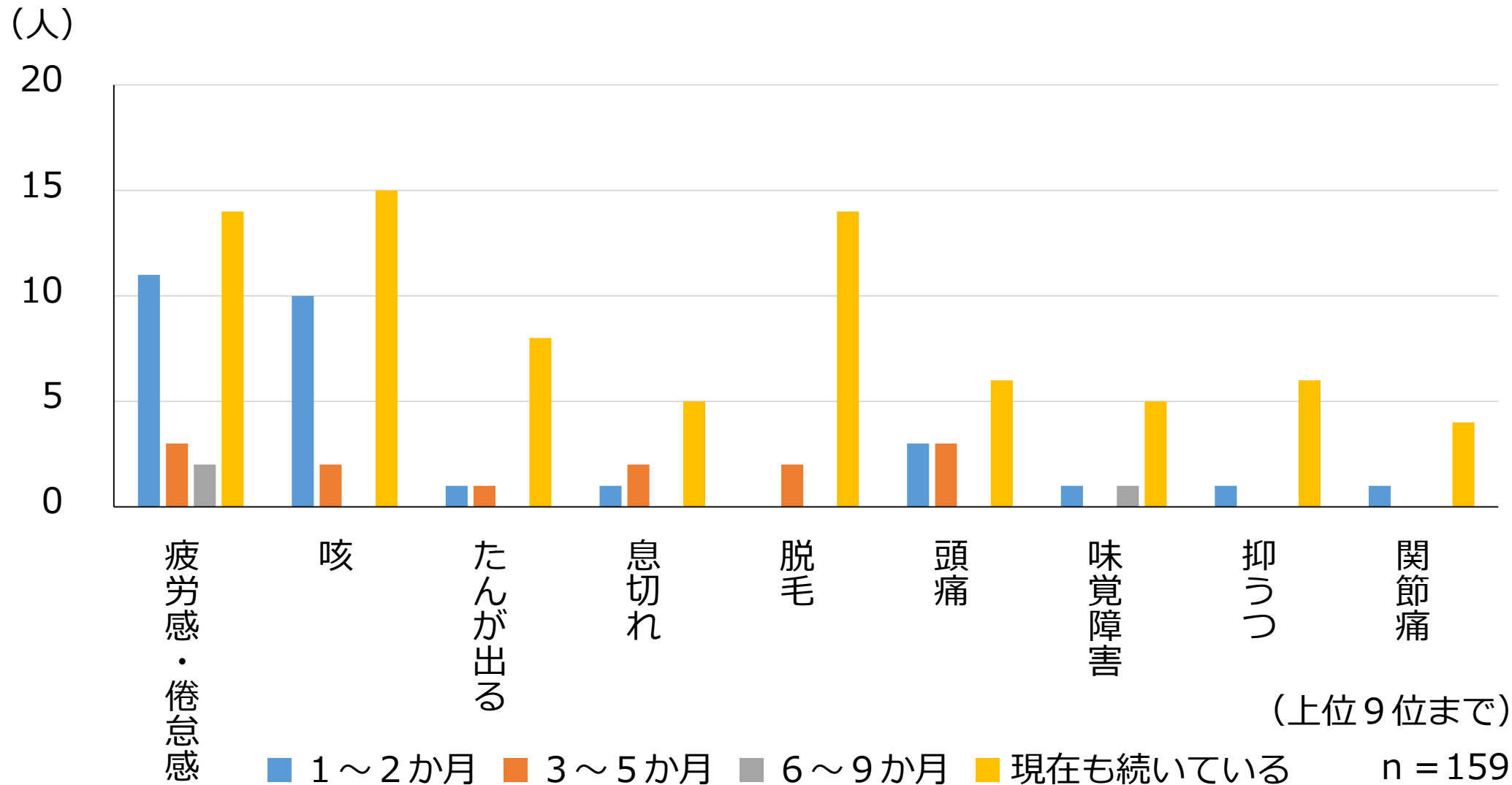
■ 3月を除き、「現在も続いている」が最も多い。





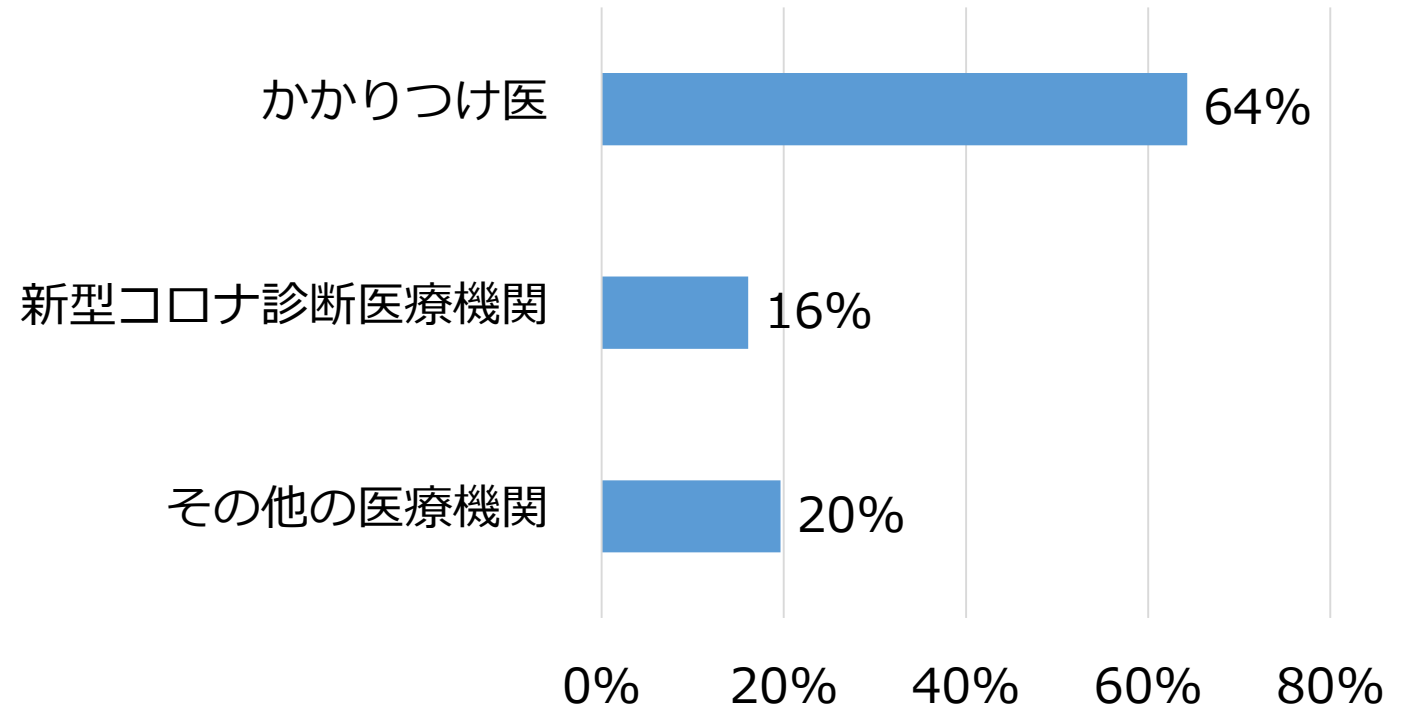
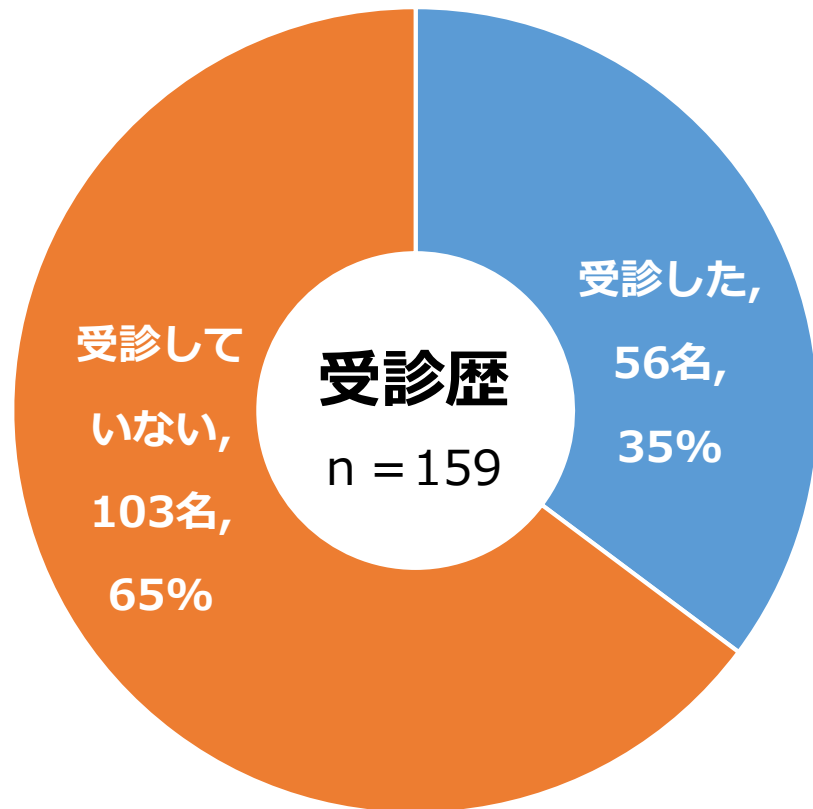
# 後遺症と思われる症状（一番つらい症状別/継続期間）

■ 「疲労感・倦怠感」・「咳」では、3割以上が1～2か月で症状消失。



# 受診の状況（受診歴・受診先）

- 後遺症と思われる症状がある・あった方のうち、「受診した」が56名（35%）、「受診していない」が103名（65%）。
- 受診先医療機関では、「かかりつけ医」が最も多く64%。



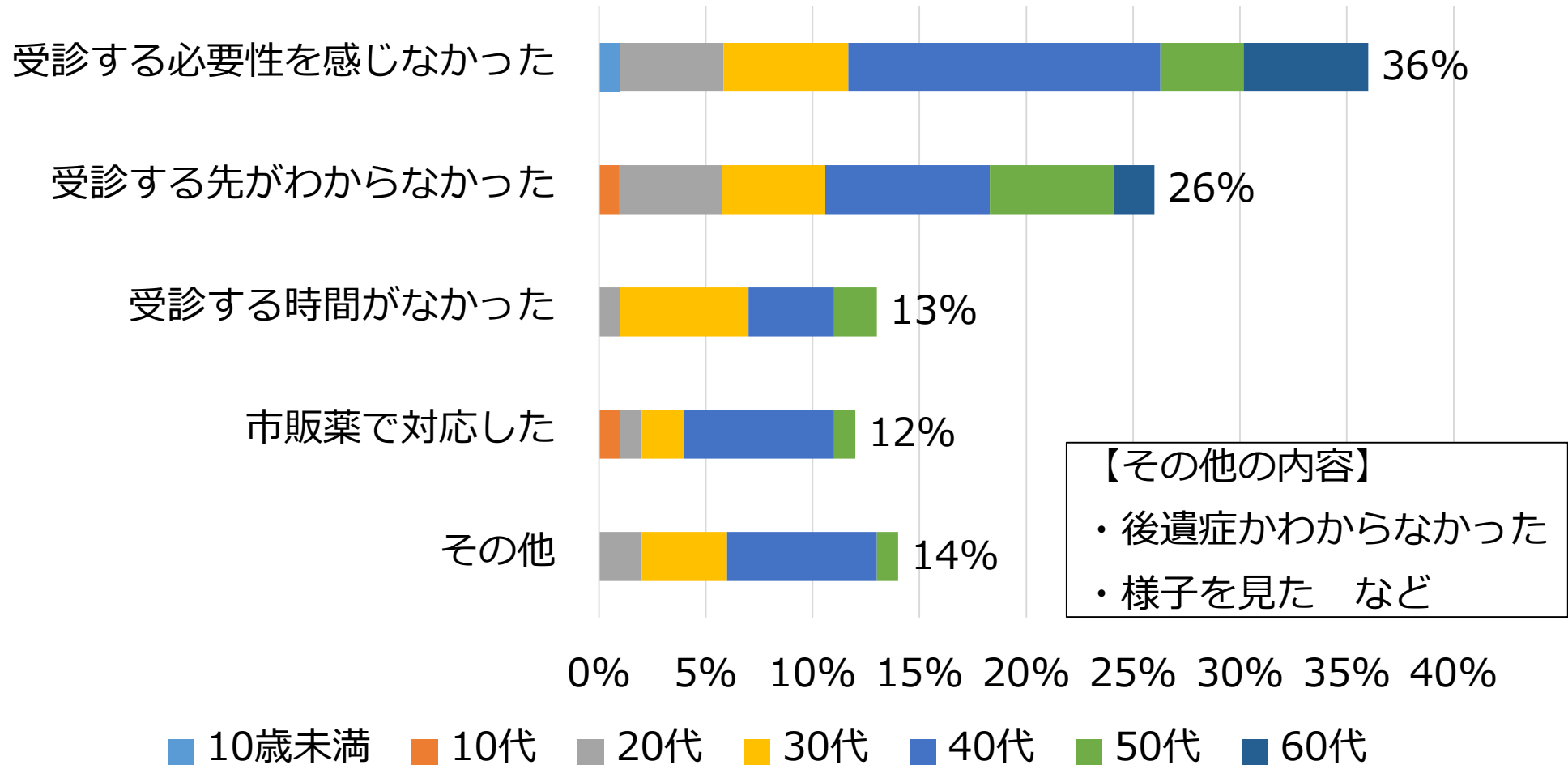
n = 56

【その他の内容】

・内科・耳鼻咽喉科などの医療機関を受診

# 受診の状況（受診しなかった理由/年代別）

- 「受診する必要性を感じなかった」が最も多く36%、次いで「受診する先がわからなかった」が26%。



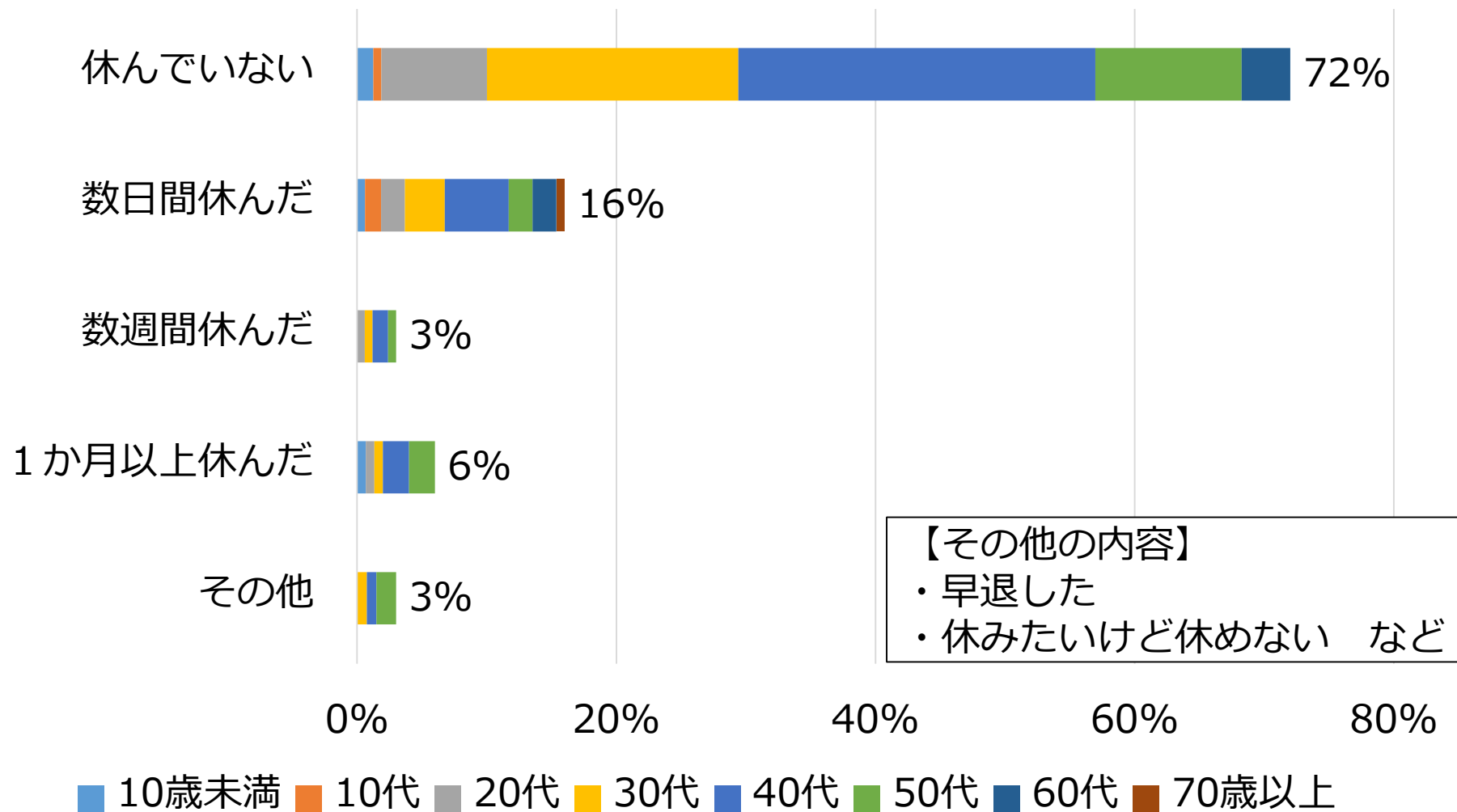
0% 5% 10% 15% 20% 25% 30% 35% 40%

■ 10歳未満 ■ 10代 ■ 20代 ■ 30代 ■ 40代 ■ 50代 ■ 60代

n = 103

# 後遺症と思われる症状の影響（仕事・学業/年代別）

■仕事や学校への影響は「休んでいない」が最も多く72%。



n = 159

# 考察と対応（1）

- 後遺症と思われる症状としては、「疲労感・倦怠感」・「咳」の症状がある（あった）という回答が多かった。
- 20代から40代において、後遺症と思われる症状があったという割合が多かった。
- ワクチン接種回数が「3回以上」の人では、「2回以下」の人よりも、後遺症と思われる症状の出た割合が11%少なかった。
- 罹患後症状（いわゆる後遺症）の治療は、対症療法（それぞれの症状に応じた治療）が中心となる。また、ほかの疾患（重い疾患や治療法のある疾患など）が原因で症状が出ている場合もある。症状が長引く場合には、まずは「かかりつけ医」に相談するよう、より一層の周知・啓発を図る。
- まずは感染しないことが大切。引き続き基本的な感染防止対策の徹底を呼びかけていく。
- ワクチン接種が、罹患後症状の発症を減少させる可能性を示唆するという研究が報告されている（厚生労働省ホームページ）。接種率の低い若年層を中心に、引き続き積極的な早期接種を呼びかける。

# 考察と対応（2）

- 「受診しなかった理由」として「受診する先がわからなかった」という回答が2番目（26%）に多かった。
- 罹患後症状（いわゆる後遺症）と思われる症状に悩む方が、より医療につながりやすくなるよう、県民への情報発信を強化する。

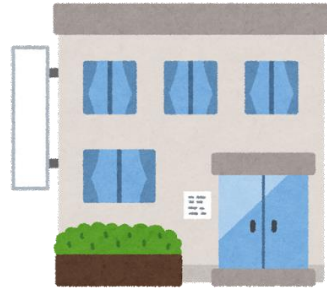
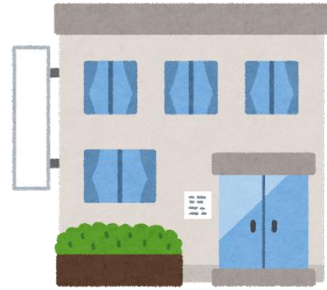
## （具体的には）

- 長引く症状がある場合は、「かかりつけ医」や「新型コロナウイルスの診断を受けた医療機関」に相談するよう促す
- かかりつけ医を持たない方への情報提供
  - 相談窓口（群馬県受診・相談コールセンター）の周知（例）医療機関の案内
  - 「統合型医療情報システム」の利用促進
- 診療の流れ（病診連携）を分かりやすく発信
  - 罹患後症状（いわゆる後遺症）は、通常の医療と同様、より専門的な治療が必要と医師が判断した場合には、かかりつけ医等から専門医療機関に紹介される。こうした診療の流れを分かりやすく周知する

# <参考> 罹患後症状（いわゆる後遺症）の診療の流れ

コロナ罹患後に  
長引く症状がある方

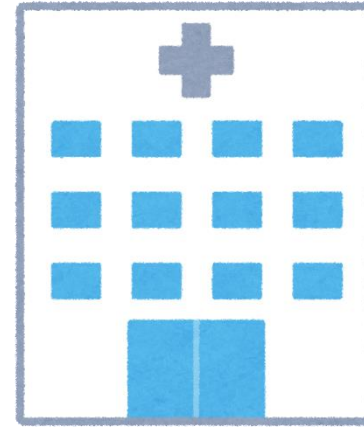
かかりつけ医等



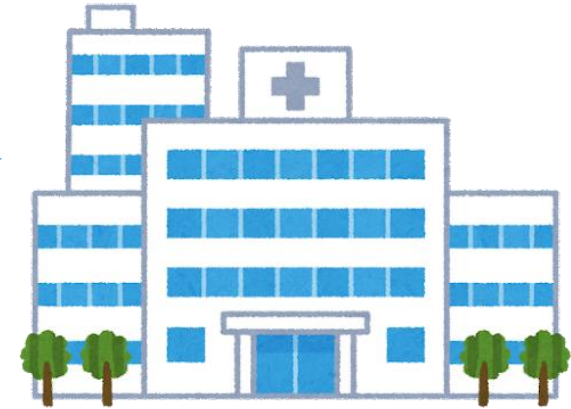
◎ 受診前に  
電話等で相談

◎ 症状に応じた治療  
経過観察、専門機関を紹介など

地域の専門病院等



専門病院、大学病院等



◎ 必要に応じ、より専門性の高い医療機関を紹介



新型コロナウイルス感染症の  
罹患後症状（いわゆる後遺  
症）が心配なときは、まずは  
かかりつけ医や身近な医療機  
関を受診しましょう。